

学校用地は騒音・土壌汚染区域 森友問題で本村氏 衆院国交委

もとむら伸子衆院議員は29日、国土交通委員会、学校法人「森友学園」に売却された国有地が航空騒音・汚染土壌を抱えている問題をただしました。



これに
対し、国
交省の佐
藤善信航

空局長は、基準以上のヒ素や鉛が確認されたと答弁。森友学園によって土壌汚染が除去されたことを踏まえ、豊中市が指定を解除した地域であると答えました。

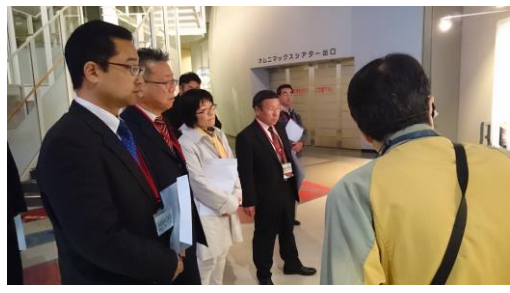
本村氏は、文科省の「小学校施設整備指針」で小学校用地について、「危険な埋設物や汚染のない土壌」「騒音、臭気等が発生する工場その他の施設が立地していないこと」が重要であるとしていることを指摘し、この土地が、豊中市が土壌汚染に指定した区域であったことに ついては、
「第一種区域」に指定されていると説明しました。
本村氏が、過去に航空機騒音防止対策区域に小学校施設のため

浜岡原発、原発災害対策視察 中野候補

○中野たけしレポート○
29日、静岡県の衆院小選挙区候補の鈴木ちか(1区)、松浦きよし(3区)、松原さとし(4区)の各氏と、平賀高茂県議らといっしょに浜岡原子力発電所と県の防災センター、津波から避難する命山を視察しました。東海ブロックと静岡県委員会が企画したものです。

浜岡原発では、中部電力が3、4号機の再稼働に向けて行っている地震・津波対策等を視察。南海トラフ巨大地震による19メートルの津波を想定した22メートルの防波壁、5号機の中央制御室、使用済み核燃料を置くプール、高台の非常用電源設備などを視察しました。

午後は、静岡空港(牧之原市)に隣接する原子力防災センターへ。原発災害時に国、自治体などの関係者が集まる現地対策本



部となり、法令で設置が決まられている施設です。浜岡原発から19キロのところにあります。訪問して感じたこと…。①浜岡原発は、新基準を満たすために四千億円を投資して工事を行っています。原発停止による代替の燃料調達費が年間二千億円増えていることを考えると、これだけ投資しても原発を再稼働した方が利益が得られるというのです。原発再稼働への「執念」をひしひしと感じました。

②原子力防災センターでは県職員の方から「原発で何かあれば、国を挙げた総力戦で対応すること

に国有地を売却した事例があるかと質問したのにたいし、佐藤局長は過去10年に例がないことを明らかにしました。

石井大臣は、騒音についても、「法律上、航空機による騒音の影響の大きさによって小学校の立地が制限されるものではない」と答弁しました。
本村氏は、国有財産近畿地方審議会でも騒音・汚染について十分な説明がなかったとして、「学園側の言いなりに値下げをして土地を貸し出し、8億円も値引きして売却する国交省の姿勢も大問題だ。国交省も『小学校施設整備指針』に合っているか精査する必要があるのではないか」と批判しました。

◆静岡市議選、伊賀市議選◆
26日投票された静岡市議選は、鈴木節子、杉本護、寺尾昭、内田隆典、望月賢一郎の5氏全員が当選し、現有議席を確保しました。得票数(2万2952票、243票増)、得票率(9.54%、0.94ポイント増)とも前回より伸ばしました。自民党は2議席減らし、16議席。民進党、みんなの党、日本維新の会は議席を失いました。伊賀市議選は、百上真奈氏が当選し現有議席を確保しましたが、釜井敏行氏は及びませんでした。2氏の合計得票は2566票で、得票率を0.4ポイント伸ばしました。

になります」という話がありました。原発は、いったん事故が起これば、他の事故とは違う「異質の危険」と隣り合わせのものであることを感じる訪問でした。

南海トラフ巨大地震が想定される東海地域。様々な地震・津波対策が重ねられています。「絶対安全」というものはありません。福島原発事故からも明らかのように、人間の力で制御できない原発は、「ゼロにする」政治決断を行い、再生可能エネルギーへの本格的な転換が必要だと感じる訪問となりました。

全国 850 万、東海 96 万票・比例 3 議席で安倍暴走政治をストップ!